

受領 令和 年 月 日  
午前 午後 時 分

# 死亡届

令和 年 月 日届出

北海道旭川市長

受理 令和 年 月 日 第 号	発送 令和 年 月 日					
送付 令和 年 月 日 第 号	北海道旭川市長 印					
受付 書類調査	戸籍記載	記載調査	調査票	附 票	住民票	通知

本届書中  
字訂正  
字加入  
字削除

届出印

(1) (よみかた)	氏 名		□男 □女
(2) 氏 名	氏	名	□男 □女
(3) 生 年 月 日	大正 平成 昭和 令和 年 月 日	(生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください)	□午前 時 分 □午後 時 分
(4) 死亡したとき	令和 年 月 日		□午前 時 分 □午後 時 分
(5) 死亡したところ	番地 番 号		
(6) 住 所	番地 番 号	(マンション名等)	
(7) 本 籍	都道府県	番地 番	
(8) 死亡した人の夫または妻	筆頭者の氏名		
(9) 死亡したときの世帯のおもな仕事と	□1. 農業だけまたは農業とその他の仕事を持っている世帯 □2. 自由業・商工業・サービス業等を個人で経営している世帯 □3. 企業・個人商店等(官公庁は除く)の常用勤労者世帯で勤め先の従業員数が1人から99人までの世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5) □4. 3にあてはまらない常用勤労者世帯及び会社団体の役員の世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5) □5. 1から4にあてはまらないその他の仕事をしている者のいる世帯 □6. 仕事をしている者のいない世帯		
(10) 死亡した人の職業・産業	(国勢調査の年... 年...の4月1日から翌年3月31日までに死亡したときだけ書いてください)	職業	産業
(11) その他			
届 出 人	住所	番地 番 号	
	(マンション名等)		
	本籍	都道府県	番地 番
	署名	大正 昭和 平成 年 月 日生	
	(※押印は任意)	印	
事件簿番号	日中連絡の取れるところ		
	電話 ( )		
	自宅・携帯・勤務先・呼出 ( ) 方		

### 記入の注意

鉛筆や消えやすいインキ(消えるボールペン)で書かないでください。死亡したことを知った日からかぞえて7日以内に出してください。届書は1通でさしつかえありません。

「筆頭者の氏名」には、戸籍のはじめに記載されている人の氏名を書いてください。

内縁のものはふくまれません。

□には、あてはまるものに☑のようにしるしをつけてください。

死亡者について書いてください。

届け出られた事項は、人口動態調査(統計法に基づく基幹統計調査、厚生労働省所管)、がん登録等の推進に関する法律に基づく全国がん登録(厚生労働省所管)にも用いられます。

# 死亡診断書(死体検案書)

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かき書で、できるだけ詳しく書いてください。

### 記入の注意

氏 名	1男 2女	生年月日	明治 昭和 平成 令和 年 月 日	(生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください)	午前・午後 時 分
死亡したとき	令和 年 月 日		午前・午後 時 分		
(12) 死亡したところ	死亡したところの種別	1病院 2診療所 3介護医療院・介護老人保健施設 4助産所 5老人ホーム 6自宅 7その他			
(13) 及びその種別	死亡したところ	番地 番 号			
(14) 死亡の原因	死亡したところの種別1~5) 施設の名称	(ア)直接死因	発病(発症)		
		(イ)(ア)の原因	又は受傷から死亡までの期間		
		(ウ)(イ)の原因	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)		
		(エ)(ウ)の原因			
	手術	1無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	令和 平成 年 月 日 昭和
	解剖	1無 2有	主要所見		
(15) 死因の種類	1病死及び自然死	外因死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焰による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他		
	その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 }				
	12不詳の死				
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生したとき	令和・平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工事及び建築現場 3道路 4その他 ( )			
	手段及び状況	◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください。			
(17) 生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	1単胎 2多胎(子中第 子)	妊娠週数
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状				満 週
	1無 2有		母の生年月日	昭和 平成 年 月 日	前回までの妊娠の結果
	3不詳				出生児 死産児 胎 人
					(妊娠満22週以降に限る)
(18) その他特に付言すべきことがら	上記のとおり診断(検案)する				
(19) 医師	診断(検案)年月日	令和 年 月 日	本診断書(検案書)発行年月日	令和 年 月 日	番地 番 号

生年月日が不詳の場合は、推定年齢をカッコを付して書いてください。

夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

「老人ホーム」は、介護老人ホーム、特別介護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。死亡したところの種別で「3介護医療院・介護老人保健施設」を選択した場合は、施設の名称に続けて、介護医療院、介護老人保健施設の別をカッコ内に書いてください。

傷病名等は、日本語で書いてください。1欄では、各傷病について発病の型(例：急性)、病因(例：病原体名)、部位(例：胃噴門部がん)、性状(例：病理組織型)等もできるだけ書いてください。

妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週の分娩中」と書いてください。産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何週産後何日」と書いてください。

1欄及び2欄に關係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコを付して書いてください。

「2交通事故」は、事故発生からの期間にかかわらず、その事故による死亡が該当します。「5煙、火災及び火焰による傷害」は、火災による一酸化炭素中毒、窒息等も含まれます。

「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホーム等の居住施設は含まれません。

傷害がどういう状況で起こったかを具体的に書いてください。

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により推定し、できるだけ正確に書いてください。母子健康手帳等を参考に書いてください。